デューラー研究　第20

デューラーの「絵画論」(6)

女性均衡論と頭部の構成の試訳

美術学科

下　村　耕　史

Dürer's Drafts of his "On Painting" (6)

a translation by Koji SHIMOMURA

序

本稿は前5回の報告(第20巻，1989年；第22巻，1991年；第23巻，1992年；第24巻，1993年；第25巻，1994年)と同じく，*Dürer : Schriftlicher Nachlass*, herausgegeben von Hans Rupprich. Zweiter Band, Berlin 1966を底本として試みられたデューラー未完の「絵画論」の草稿の訳である。凡例は前回に従う。

(承前) **Nr.12**は断片のため省略。

Nr.13　非常に細長い女性像の比例：長さと幅。モデルの測定。(1　ロンドン草稿，2　ドレスデンのスケッチ帳から，ともに1512年頃，R.2.254～255頁)

1

長く美しい身体と小さい頭部の長身の女性の比例を測定する機会は，同様に極めて稀である。

顎から頭頂部までの長さは〔全長の〕1/9である。顎から額の下端までの長さは顎下の窪んだ肉を含めて1/12。

陰部の端は全長の中央の1/50下である。

上半身を2本の水平線で3等分する。

最初の線はのどの凹みに接し，第2線は脇腹を通る。

頭頂部から腋下までの長さは1/5である。腋から1/18上に肩の高さがくる。

頭頂部から肩の上端に接するところまで1/8である。

頭頂部から心窩まで1/4である。

顎から乳頭まで1/8である。

顎から胸下まで1/7である。

顎から脚の付け根の腰の下端まで1/3である。

陰部の端から臍まで1/8である。

陰部の端から腹の丸みの始まりまで1/25である。

足裏から足の甲の高さまで1/18である。

腰と足の甲の間を2等分する。その線は膝中央を通る。

肩の高さから肘まで1/5である。肘から手先まで1/4である。

手は1/12より少し長い。

以上が肢体部分の長さである。

更に正面像のその位置での全ての幅を測ることにする。

頭部の幅は1/12である。

顎下の頸部の幅は1/19である。

肩上の幅は1/5である。

のどの凹みの線上の両側に，1/7の間隔で○〔小円〕の記しをつける。それは両肩関節を示す。

両腋間の幅は1/7である。

両乳頭間の幅は1/10である。

脇腹での幅は1/7。その上方で体は少し細くなる。

臍上の幅は1/6である。

腰上の幅は2/11である。

陰部の線上での大腿部の幅は1/11である。

膝中央の幅は1/21である。
ふくらはぎ中央の幅は1/20である。
足上の前幅は1/40である。
足の前幅は1/20である。
腕の上の方の幅は1/23である。
肘上の幅は1/26である。
肘下の幅は1/22である。
手関節の幅は1/35である。
手の幅は1/21である。

図1　ドレスデンのスケッチ帳，
fol.118v. Strauss 67.

2

〔図1と図2はドレスデンのスケッチ帳から。文字は断片のため省略〕

Nr.14　頑丈な男性像の対となる8頭身の頑丈な女性像。頭部の側面・正面・背面図。断片。（1～3 ロンドン草稿，1512年頃，R.2.255～257頁）

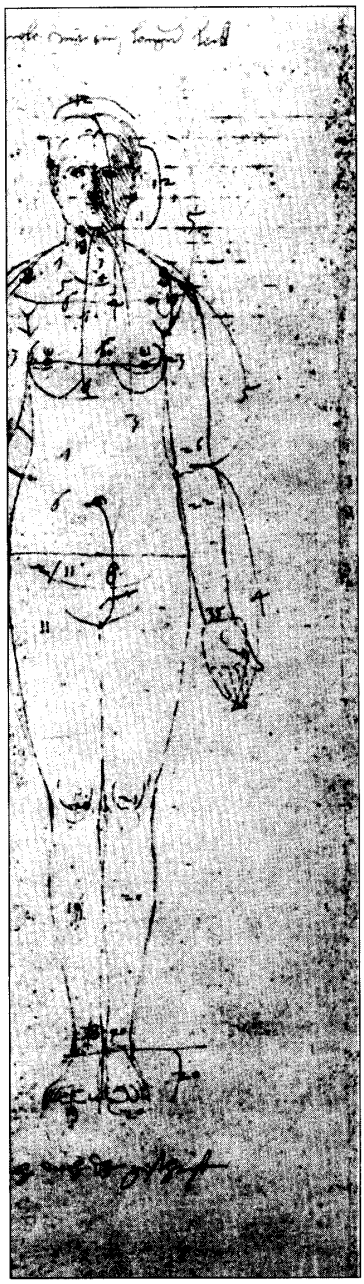

図2　ドレスデンのスケッチ帳，
fol.118r. Strauss 68.

1

前述の男性像が図示され完成されたので〔本報告第22巻，1991年，54頁，Nr. 8参照〕，次にその対となる頑丈な女性の肢体を作る。

前述の男性頭部と同様な比例の頭部を考える。男性同様，頭部のための3つの方形を並立して描き，〔全長の〕1/8の高さの最初の方形に頭部の側面，同じ高さの他の2つの方形に正面と背面図を描く。頭部の側面図のための方形の幅と高さは同じであるが，頭部の正面と背面図のための方形の各幅は1/11である。

2

前述の男性が作られたので，次にその対となる頑丈な肢体の女性を作る。

まず頭部を想定し，並立する3つの方形に前述の仕方でそれを描く。

1/8の高さと幅の最初の方形に顔の側面図を描く。

頭部の正面と背面図のための方形の各幅は1/11である。

前述同様，顔の側面図のための最初の方形を，顔の全ての部分の奥行きを示す垂線で区切ることから始め，垂線に文字を記す。前と後ろの2つの垂辺をそれぞれa，bとする。

aから〔1/8の〕1/9後ろに垂線cを引く。その線は〔顎下の〕膨らみが頸部へと下りる前の，頭部の特別の窪みの後ろに接する。

aから1/60後ろに垂線dを引く。その線は唇，顎の前，目頭に接する。

aから1/50後ろに垂線eを引く。その線は眼球の前，鼻翼の端の後ろ，顎上と下唇の間の窪みに接する。

aから1/24後ろに垂線fを引く。その線は方形の底辺で頸部の前に接する。

線fから1/16後ろに垂線gを引く。その線は方形の底辺で頸部の後ろに接する。

aから1/40後ろに垂線hを引く。その線は目尻に接する。

その線は頸部に下りる前に，方形の底辺で顎の窪みに接する。

線eから1/20後ろに垂線jを引く。その線は耳と頬を区切る。

耳朶は頬のj l間〔lは次節に後出〕のa側の半分にはいる...

3

男性が作られたので，その対となる頑丈な肢体の女性を次に作る。

まず前述の仕方で並立する3つの方形に頭部を描くことにする。

1/8の高さと幅の最初の方形に顔の側面図を描く。

頭部の正面と側面のための方形の各幅は1/11である。

前述同様，顔の全ての部分の奥行きを示す垂線で，顔の側面図のための最初の方形を区切り，それに文字を記すことから始める。前と後ろの2つの垂辺をそれぞれa，bとする。

aから〔1/8の〕1/9後ろに最初の垂線cを引く。その線は，〔顎下の〕膨らみが頸部へと下りる前の，頭部の特別の窪みの後ろに接する。

aから1/60後ろに垂線dを引く。その線は額の旋毛の上，下唇の前，顎と目頭の前に接する。

aから1/50後ろに垂線eを引く。その線は眼球の前，鼻翼の端の後ろ，顎と下唇の間の窪みに接する。

aから1/24後ろに垂線fを引く。その線は方形の底辺で頸部の前に接する。

線fから1/16後ろに垂線gを引く。その線は方形の底辺で頸部の後ろに接する。

aから1/40後ろに垂線hを引く。その線は目尻に接する。

その線は頸部に下りる前に，方形の底辺で顎の窪みに接する。

線eから1/20後ろに垂線jを引く。その線は耳と頬を区切る。

線jから1/18前に垂線kを引く。その線は上唇の前に接する。

aから1/11後ろに垂線lを引く。その線は耳の後ろに接する。耳朶は頬のj l間の半分にはいる。

aから1/30後ろに垂線mを引く。その線は眉毛の後端に接する。

線eから1/10後ろに垂線nを引く。その線は後頭部のつむじに接する。

こうして垂線が引かれたので，顔の全ての部分の高さを示す水平線を方形の垂線に引き入れ，それに文字を記す。

上辺をa，底辺をbとする。

aから1/32下に水平線cを引く。その線と2垂線dnとの交点に，額の旋毛と後頭部のつむじがくる。

aから1/16下に水平線dを引く。その線は眉毛を通り，耳の上に接する。

cから1/11下に水平線eを引く。その線は顎下に接する。

Nr.15　8等身の美しい頑丈な女性像の比例（第2の型）：頭部の側面・正面・背面・平面図；身体の側面・正面・背面像。腕の側面・正面図。（1～5 ロンドン草稿，1 に1512の年記，R.2.257～264頁）

1

イエズス　マリア　1512年

美しい頑丈な成人の女性の〔前記とは〕異なる比例を次に記す。

身体を作る前に，前述同様，並立する3つの方形に頭部を描く。

まず顔の側面図から始める。そのための方形の高さと幅は女性の全長の1/8である。

顔の正面図のための方形の幅は1/11である。

垂線で顔の全ての部分の奥行きを区切ることにする。それに文字を記す。

方形の前の垂辺をa，後ろの垂辺をbとする。

aから〔1/8の〕1/9後ろに垂線cを引く。その線は頸部に下りる前の，頭部の特別の窪みの後ろに接する。

aから1/56後ろに垂線dを引く。その線は額の旋毛の上，下唇の前，顎の前に接する。

aから1/48後ろに垂線eを引く。その線は眼球の前，鼻翼の後端，顎上と下唇の間の窪みに接する。

aから1/24後ろに垂線fを引く。その線は方形の底辺で頸部の前に接する。

線fの1/16後ろに垂線gを引く。その線は頸部の後ろに接する。

aから1/36後ろに垂線hを引く。その線は目尻と方形の底辺で顎の窪みに接する。

線eから1/20後ろに垂線jを引く。その線は耳と頬を区切る。

jから1/18前に垂線kを引く。その線は上唇の前に接する。

aから1/11後ろに垂線lを引く。その線は耳の後ろに接する。耳朶は頬のjl間の半分にはいる。

aから1/28後ろに垂線mを引く。その線は眉毛の後端に接する。

線eから1/10後ろに垂線nを引く。その線は後頭部のつむじに接する。

こうして垂線が引かれた。次に顔の諸部分の高さを水平線を引いて示し，それに文字を記す。

方形の上辺をaとする。

方形の底辺をbとする。

aから1/32下に水平線cを引く。その線は前と後ろの垂線dとnで額の旋毛と後頭部のつむじに接する。

aから1/16下に水平線dを引く。その線は眉毛を通り，耳上に接する。

cから1/11下に水平線eを引く。その線は顎下に接する。

deの中間に水平線fを引く。その線は鼻下に接し，垂線cで頭部の後ろの窪みに接する。

額の旋毛から方形の下隅に直線を引く。その斜線と〔dとfの〕水平線とのそれぞれの交点から，額と鼻の形が描かれる。

df間を4等分する。その最下部分を線gで区切る。その線は鼻翼の上と耳下に接する。

df間を3等分し，その最上部分を線hで区切る。それに眼全体が入る。dh間の中央に眼の両隅がくる。

目頭は垂線間の中央にくる。

眼球はdh間の中央の高さでdh間の半分の大

きさを占め，瞼はｄｈ間の上下の1/4をそれぞれ占める。

眉毛はその中央で線ｄの上になるが，その両端で線ｄに接する。

ｆｅ間を水平線ｊで２等分する。その線は垂線ｅで顎上に接し，後ろの垂線ｇ〔原文ではｇｈとあるが，前記より明らかにｈを除かなければならない〕で後頭部下の頸部上に接する。

ｆｊ間を水平線ｋで２等分する。その線は口の中央を通る。

口の奥行きは２垂線ｅｆ間にはいる。

水平線ｆｋを３等分する。上2/3は人中線になり，下1/3は上唇の厚さになる。

下唇の厚さはｋｊ間の半分である。その下半分は唇と顎の間の窪みになる。こうしていまや次図にみるように，...いま引かれた垂線と水平線に顔の側面の形を描き入れる。

顔の側面図を方形に描く。顔の全ての部分の幅を示す垂線で方形を区切り，方形の左右の２つの垂辺をａ，ｂとする。

ａｂ間を11本の垂線で12等分し，それをａｂｃｄｅｆｇｈｊｋｌと記す。

線ｆは額の旋毛，鼻，口，顎の中央を通る。〔方形内の垂線〕ａは右耳と頬を区切る。左側のｌについても同様である。耳は両側の２線ｎｍに接する〔前記の方形の左右の垂辺ａｂは，ここでｎｍと言い換えられている〕。耳朶は右のｎａ間と左のｌｍ間の頬側の半分にそれぞれはいる。

両鼻翼は２線ｅｇに接する。鼻翼の前幅は〔鼻の〕半分である。

口は２線ｅｇに接する。顎も同様である。

目頭もｅｇに接する。

目尻は２線ｃｊに接する。

右の眉毛の端は水平線ｄ上の，垂線ｂｃ間の中央にくる。左のそれはｊｋ間にくる。

額の幅は２垂線ａｌに接する。

垂線ｄとｈは眼球の中央を通る。

下の頸部の幅は1/17である。

次図にみるように，顔を方形に描き入れる。

頭部の背面図を正面図の輪郭線を用いて描く。頭部の平面図を，前述の仕方で描く〔後出のC.3.a.頭部の構成参照〕

こうして頭部は描かれた。次に頭部同様，身体の側面，正面，背面像を描くことにする。そのため任意の長さの垂線を３本引き，それを並立させる。最初の垂線に側面，次ぎの垂線に正面〔原文には側面（nebensich）とあるが，これは明らかに正面の間違いと思われる〕，第３の垂線に背面像を描く。

３垂線を全ての肢体部分を示す水平線で区切る。

頭部の長さは女性の全長の1/8である。

頭頂部からのどの凹みまで1/6である。

のどの凹みから心窩まで1/12である。

のどの凹みから胸まで1/20である。

のどの凹みから乳頭まで1/11である。

のどの凹みから胸下まで1/9である。

のどの凹みから前の腋下まで1/16である。

前の腋下から肩関節の高さまで1/14である。

のどの凹みから後ろの腋下まで1/12である。

のどの凹みから臍まで2/9である。

のどの凹みから1/30上のところで，肩肉は肩関節から頸部の半ばまで円弧を描く。

女性の全長の中心から1/7上に脇腹がくる。

脇腹から腰の下端まで1/10である。

脇腹から隠部の分割まで1/9である。

脇腹から臀部の下端まで1/6である。

臀部の下端と女性全長の中心との間の，２線の中央に隠部の端がくる。

足裏と足の甲の間は1/20である。

その1/20を４等分する。下の1/4に親指が含まれる。小指の厚さは親指の半分である。

腰と足の甲の間を２等分する。その線は膝の中央を通る。２部分は...

膝の中心の1/40上に膝蓋の上端がくる。

膝の中心の1/30下に膝の円さの下端がくる。

膝の中心から1/11下にふくらはぎの中心がくる。

膝の中心から1/8下に外側のふくらはぎの下端がくる。

膝の中心から1/7下に内側のふくらはぎの下端がくる。

こうして身体の肢体部分の長さが得られた。次

に腕の長さを測る。
のどの凹みの高さから肘まで1/5である。
肘から指の先端まで1/4である。
手の長さは1/11である。
手を3等分する。その中央部に親指が含まれる。
肢体部分の全ての長さが水平線で区切られたので，肢体の全ての厚さと幅を測る。
まず垂線上にある側面像から始め，肢体の全ての厚さを測る。
頸部の厚さは1/16である。
のどの凹みでの厚さは1/14である。
胸の上部の厚さは1/9である。
胸の厚さは1/8である。ただし乳頭は前に出る〔含まれない〕。
胸下の厚さは1/9である。
脇腹での厚さは1/10か1/9である。
臍上の厚さは1/9である。
腰上の厚さは2/13である。
〔隠部の〕分割での厚さは1/7である。
女性の全長の中心での臀部の厚さは1/8である。
臀部下の大腿部の厚さは1/9である。さらにその下は1/10である。
膝の上の厚さは1/18。膝中央の厚さは1/15。膝下の厚さは1/17である。
ふくらはぎ中央の厚さは1/18である。
ふくらはぎの下の厚さは1/16である。
足の上の厚さは1/28である。
足の長さは1/7である。それをａｂｃに3等分する。前の1/3に足の指が含まれる。
次に腕の側面の厚さを測る。
肩関節での腕の厚さは1/14である。
腋下での腕の厚さは1/16である。
肘上での腕の厚さは1/24。肘の厚さも同じである。
肘下での腕の厚さは1/21である。
その下の腕の厚さは1/27である。
手関節での厚さは1/38である。
手の厚さは1/29である。
こうして女性の側面の厚さは得られた。次に女性正面の肢体部分の幅を測る。
前に作られた頭部をその位置に描く。
頸部の幅は1/17である。
肩関節上の幅は1/5である。
両腋間の幅は1/7である。
乳頭間の幅は1/11である。
脇腹での幅は1/7である。
臍上の幅は2/11である。
腰上の幅は1/5である。
女性全長の中心の幅も1/5である。
隠部の下の大腿部の幅は1/10である。
膝上の幅は1/16である。
膝中央の幅は1/17である。
膝下の幅は1/19である。
ふくらはぎ中央の幅は1/16である。
その下の細いふくらはぎの幅は1/19である。
足の上の幅は1/33である。
足の前幅は1/20である。
次に腕の正面の幅を測る。
腋下の腕の幅は1/24である。
肘上の腕の幅は1/26である。
肘下の腕の幅は1/20である。
手関節の幅は1/35である。
手の幅は1/20である。
次に女性の背面を正面の輪郭線を用いて描く。
背面の両腋間の幅は1/6である。
臀部の分割の長さは1/11である。
足の踵の幅は前幅の半分である。
女性像の屈折点はどこに見いだされるか。
像を貫く垂線上での，女性の側面像の背中と腰における屈折点をみつけよう。次図にみるように，像は垂線上に描かれ，身体の後ろ1/3の，水平線ａｂｃｄｅｆｇｈ上に屈折点が記される。側面像で背骨は身体の後ろ1/3のところの，全ての水平線上で前後に屈折させられる。腰はｊ上の中央で屈折する。同様に膝はｋ上で，足はｌ上で屈折する。
前述したように，女性の正面像は背骨をはさんだ腰の両側のａｂで屈折する。次図にみるように，その間隔は1/7である。
［女性頭部の側面・正面・背面図］
頭部の側面図の耳をもっと眼の方に近づけようと

思えば，垂線ｊｌを〔その間隔の〕半分ほど前にずらすとよい。
ここに〔構成の〕直線の除かれた顔の形態がみられる。〔この文の意味やや不明瞭〕

2

美しい頑丈な成人の女性の〔更に前記とは〕異なる比例を次に記す。
前述同様，〔全長の〕1/8の頭部をその位置に描く。
身体の側面・正面・背面像を描く。
この３像のため，女性の全長分の垂線を３本引いて，それを並立させる。前述同様，３垂線を通る水平線で肢体部分の全ての長さを区切る。
頭頂部からのどの凹みまで1/6である。
のどの凹みから心窩まで1/12である。
のどの凹みから胸まで1/20である。
のどの凹みから乳頭まで1/11である。
のどの凹みから胸下まで1/9である。
のどの凹みから前の腋下まで1/16である。
のどの凹みから後ろの腋下まで1/12である。
腋から肩関節の高さまで1/14である。
のどの凹みから臍まで1/9である。
のどの凹みから1/30上で，肩肉は肩関節から頸部まで弧を描く。
女性の全長の中心から1/7上に脇腹がくる。
脇腹から腰の下端まで1/10である。
脇腹から陰部の割れ目まで1/9である。
脇腹から臀部の下端まで1/6である。
臀部下端と女性全長の中心の間の，２線の中心に隠部の端がくる。
足裏と足の甲の上端との間隔は1/20である。その1/20を４等分する。下の1/4は親指の厚さである。小指の厚さはその半分である。
腰と足の甲の間は膝で２等分される。〔のどの凹みから足の甲までは３等分され，等比例（本稿３参照）はまだ用いられていない。R.2.263，註４参照〕。
比例的に同じで，分数として表されていない場合に，文字が記される。
それで脚の等しい〔長さの〕２部分はａｂと記される。
膝中央の1/40上に膝蓋の上端がくる。
膝蓋の1/30下に膝の円さの下端がくる。
膝中央から1/11下に，ふくらはぎの最も厚い部分がくる。
膝中央の1/8下に外側のふくらはぎの下端がくる。
膝中央の1/7下に内側のふくらはぎの下端がくる。
こうして身体の肢体部分の長さが得られた。
次に腕の長さを測る。
のどの凹みの高さから肘まで1/5である。
肘から指先まで1/4である。
手の長さは1/11である。手を３分する。中央部分は親指である。
肢体部分の全ての長さが水平線で区切られたので，同じ線上の肢体部分の全ての厚さと幅を測る。
まず垂線上の側面図から始める。肢体部分の全ての厚さを測る。
頸部の厚さは1/16である。
のどの凹みでの厚さは1/14である。
胸の上での厚さは1/9である。
胸での厚さは1/8である。乳頭は前にでる〔1/8に含まれない〕。
胸下での厚さは1/9である。
脇腹での厚さは1/10である。
臍上の厚さは1/９である。
腰での厚さは1/7である。
女性の全長の中心での厚さは1/8である。
臀部の下の大腿部の厚さは1/9である。
その下の厚さは1/10である。
膝の上の厚さは1/15である。
膝中央の厚さは1/16である。
膝下の厚さは1/19である。
ふくらはぎ中央の厚さは1/15である。
ふくらはぎ下部の厚さは1/20である。
足の上の厚さは1/28である。
足の長さは1/7である。それを３等分する。
前の1/3に足指が含まれる。
次に腕の側面の厚さを測る。
肩関節での腕の厚さは1/14である。
腋下での腕の厚さは1/16である。
肘上での腕の厚さは1/24である。

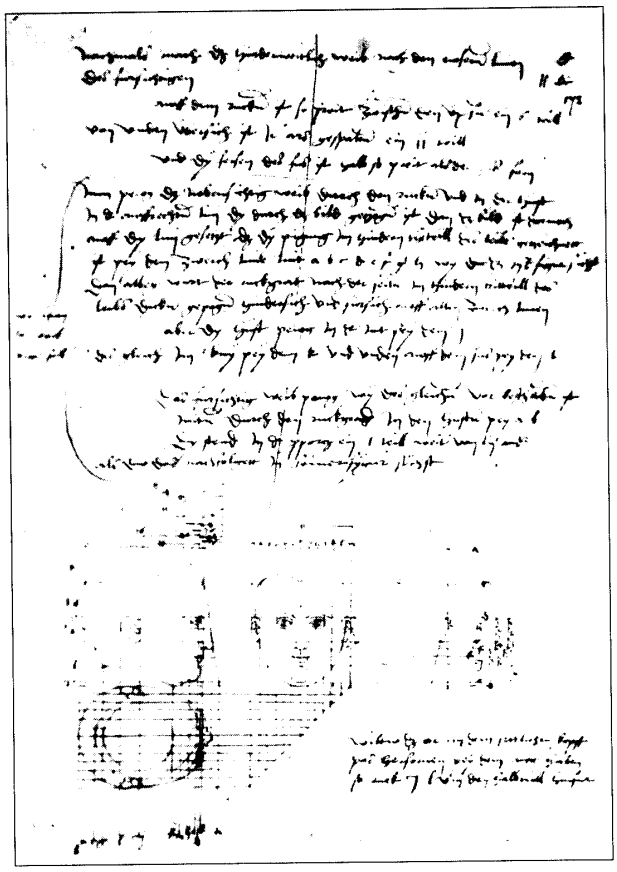

図3　ロンドン草稿 5230, fol.172[a].

肘での腕の厚さも1/24である。
肘下での腕の厚さは1/21である。
腕の中ほどでの厚さは1/27である。
手関節での腕の厚さは1/38である。
手の厚さは1/29である。

3

次に女性正面の肢体部分の全ての幅を測る。
前述同様，頭部の長さを1/8にする。
その下の頸部の幅は1/17である。
肩関接での幅は1/5である。
両腋間の幅は1/7である。
乳頭間の幅は1/11である。
脇腹での幅は1/7である。
臍上の幅は2/11である。
腰上の幅は1/5である。
女性の全長の中心での幅は1/5である。
陰部の下の大腿部の幅は1/10である。
膝上の幅は1/17である。
膝中央の幅は1/19である。
膝下の幅は1/20である。
ふくらはぎ中央の幅は1/17である。
ふくらはぎの最も内側の幅は1/21である。
足の上の幅は1/35である。
足の前幅は1/20である。
次に腕の正面の幅を測る。
腋下での腕の幅は1/22である。
肘上での腕の幅は1/26である。
肘下での腕の幅は1/20である。
手関節での腕の幅は1/36である。
手の幅は1/20である。
女性の背面像を正面像の輪郭線を用いて描く。
背面の両腋間の幅は1/6である。臀部の分割の長さは1/11である。
足の踵の幅は足の前幅の半分である。
女性の屈折点は次のようになる。
まず側面像の垂線上にａｂｃｄｅｆｇｈと記す。文字は垂線上の水平線に記される。
側面像の屈折点は，垂線上の水平線にａｂｃｄｅｆｇｈと記された点になる。〔側面の〕人物像ではつねに身体の厚さの2/3が前に，1/3が後ろになるように描かれる。全ての像においてそうであるというのではない。それで記述された像の背骨は，身体の厚さの後ろ1/3で前後に曲げられることに注目することである。
ついで腰，膝，足の上で屈曲される。その屈曲の中心点にｊｋｌと記す。
別の比例で述べたように〔前々節〕，女性の正面像は〔背骨をはさんだ〕腰の両側のａｂで屈折する。その間隔は1/7である。

4　断片のため省略。

5　〔ロンドン草稿の図4のみ〕

Nr.16　細みの男性像と対をなす8頭身の細長い女性像。頭部の3図。頭部側面の比例。（ロンドン草稿，1512の年記，R.2.264～265頁）

これから記す細長い女性の比例は，すぐ前に記

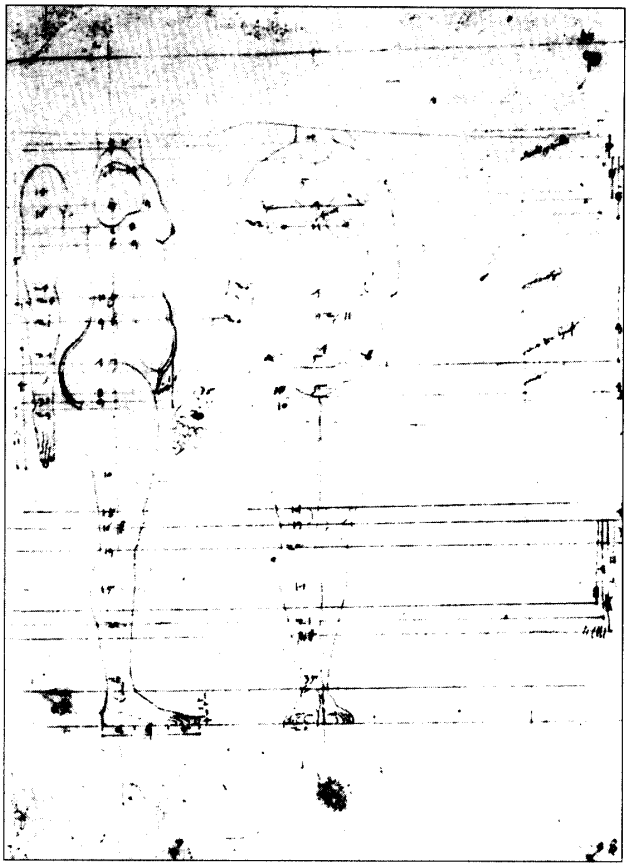

図4　ロンドン草稿 5228, fol. 98a.

述された男性と同じである。〔8頭身の細長い男性についての記述は1513年以前の草稿には遺されていないようである。R.2.265, 註1参照〕

まず前述同様，頭部の側面，正面，背面図を並べて示し，その後平面図を描くことにする。

この3方形の高さを〔身体全長の〕1/8とする。

最初に顔の側面のための方形を作る。その幅は1/9である。

正面と背面の幅はそれぞれ1/12である。

頭頂部から顎の下端まで1/9である。

顎から額の上端まで1/12である。

同じ高さ上に後頭部のつむじと額の旋毛がある。

頭頂部から鼻先まで1/12である。

顎から眉毛の端まで1/18である。

耳は眉毛の〔水平〕線に接する。また耳は下で鼻先の〔水平〕線に接する。

眉毛と鼻先の間の下の1/5に，鼻翼と耳朶の高さが含まれる。

眉毛と鼻先の間の上半分に，眼全体が含まれる。この半分の6部分〔初出〕に眼球と上下の瞼が含まれる。

額の旋毛から鼻先まで線がまっすぐに引かれ，額の膨らみはその上にでる。鼻は下へと反りまた前にでて，その線に接する。

顎は鼻の半分の高さほど前にでる。口の上半分は閉まらない〔上唇は下唇より少し前にでる〕。

上唇は鼻と〔口と〕の間の下1/3にはいる。下唇は〔口と顎の間の上〕1/3にはいり，下唇より厚い。

こうして肢体部分の全ての高さが得られた。

次に垂線で肢体部分の全ての奥行きを区切る。

前から〔頭部の〕1/9の1/4後ろに垂線を引く。その線は眉毛の後ろと頸部の前に接する。

頸部の幅は1/18である。

前から1/9の1/5後ろに垂線を引く。その線は目尻に接する。

前から1/9の1/7後ろに垂線を引く。その線は眼球と口の窪みの前に接する。

〔上記の垂線で区切られた頭部の〕最前部を鼻下で1線により2等分する。口と顎，額の髪際はその線に接する。その線から後頭部のつむじまで1/10である。

前から1/12後ろに垂線を引く。その線は耳の後ろに接する。耳の幅は1/9の1/8である。耳朶の幅はその半分である。

Nr.17　8頭身の男性像 aa bb の対になる女性像 ab の比例。頭部：側面（断片）・正面・背面・平面図。身体：側面・正面・背面像。（1，2，4はロンドン草稿，3はニュルンベルク草稿，1513年，R.2.265〜270頁）

1

すぐ前に記された8頭身の男性像〔本報告第24巻，1993年，41頁，Nr.22参照〕を全てにわたって完成させたように，次にその男性と対になる8頭身の女性について記述し，描くことにする。男性像と同様にする。3垂線を並立させ，最初の線に側面で描かれる女性の長さを測ることから始める。次のよ

うに測る。

頭頂部から〔以下の文は遺されていないようである〕。

2

線 aa bb 上に強健な男性像を作ったので，更にその対となる女性像について記す。男性像と同様にする。女性の長さをとり，上をａ下をｂと記し，同じ高さのこの線を垂直に並立させる。最初の線は女性の側面，次の線は正面，第３線は背面のためである。この線の上から1/8に記しをつける。

3

b

ｆｅを線ｊで２等分する。線ｊは垂線ｅ上で顎上と後頭部の下端に接する。頸部の垂線ｇｆｊを線ｋで２等分する。線ｋは口の中央を通る。口の窪みは２垂線ｅｈ間の半ばにはいる。

ｆｋを３等分する。上の2/3は鼻下の人中線になる。下の1/3は上唇の厚さになる。

下唇の厚さはｋｊ間の半分である。〔ｋｊ間の〕下半分は顎と口の間の窪みになる。

男性像について述べられたの同様に，顔の側面の形態をいま引かれた垂線と水平線の間に描き入れる。ただし女性らしく。

こうして頭部の側面図が描かれた。次に頭部の正面図を方形に描く。

方形の２垂辺をａｂとする。ａｂ間を９本の垂線ｃｄｅｆｇｈｙｋｌで10等分する。線ｇは額の旋毛，鼻，口，顎の中央を通る。ｆｈは両方の目頭，鼻翼，口隅に接し，顎〔先〕を含む。ｅｊは両方の瞳を通る。ｄｋは両方の目尻に接する。両方の眉毛の端はそれぞれｃｄとｋｌの中央にくる。両方の耳はそれぞれａｃ間とｌｂ間のａとｂよりの半分にはいる。耳朶は頬よりのその半分にはいり，それぞれその幅は前からみられる。方形の底辺での頸部の幅は水平線ｂの1/17である。

こうして顔の諸部分の全ての幅はこれらの垂線から得られたが，顔の側面の全ての高さも水平線から得られる。それで顔の形態を感じよく額，鼻，眼，口，頭部，その他あらゆる部分というように，この真っすぐな閉ざされた線に描き入れる。

次に頭部の背面図を，正面図の輪郭線から方形に描き入れる。

そして次図に実際にみるように，前述した転移の考え方により〔本報告第25巻，1994年，56頁，Nr. 4参照〕頭部の平面図を描く。

こうして頭部が描かれたので，次に身体の側面，正面，背面像を同じ高さの並立した３本の垂線に描くことにする。

前に描かれた頭部を，〔垂線上の〕それの属する上1/8の位置に定める。３垂線を通して肢体部分の全ての高さを水平線で区切る。そして次のように測る。

頭頂部からのどの凹みまで1/6である。

顎からのどの凹みまで４等分する。上1/4は頸部である。下3/4は肩肉で，のどの凹みから頸部へと弧を描く。

のどの凹みから胸まで1/16である。

のどの凹みから前の腋下までやはり1/16である。

のどの凹みから後ろの腋下まで1/12である。

のどの凹みから乳頭まで1/10である。

c

のどの凹みから胸下まで1/8である。

のどの凹みから臍まで2/9である。

女性の全長の中心から脇腹まで1/7である。

脇腹から臀部の下端まで2/11である。下端からの臀部の割れ目は1/10である。

脇腹から隠部の前の端まで1/6である。

脇腹から腹の下端まで2/17である。

脇腹から腰の下端まで1/10である。

臀部から1/12下に両大腿部間の隙間がある。

足裏から足の甲の高さまで1/20である。

足裏から膝中央まで2/7である。

膝中央から内側のふくらはぎ下端まで1/9である。

膝中央から外側のふくらはぎ下端まで1/10である。

膝中央から膝下まで1/30である。

膝中央から1/40上は膝上である。

こうして３像とも，正面と背面の全ての長さが

得られた。次に腕の長さを測る。
のどの凹みの高さから肘まで1/5である。
肘から指先まで1/4である。
中指から手関節までの手の長さは1/10である。
こうして全ての長さが得られた。更に全ての肢体部分の側面の厚さを測ることにする。
頸部の厚さは1/16である。肩の高さでの厚さは1/15である。
のどの凹みでの厚さは1/13である。
胸の上の腋下での厚さは1/15＋1/16である。
乳頭での厚さは1/15＋1/16である。
胸下での厚さは1/8である。
脇腹での厚さは1/17＋1/16である。
臍での厚さは1/7である。
腰での厚さは1/11＋1/12である。
腹の下端での厚さは1/6である。
女性の全長の中心での厚さは1/7である。
隠部の端での厚さは1/14＋1/15である。
臀部の下の大腿部の厚さは1/8である。
その下の両大腿部間の隙間での厚さは，1/16＋1/17である。
膝上の厚さは1/12である。
膝中央の厚さは1/12である。
膝下の厚さは1/27＋1/28である。
ふくらはぎ中央の厚さは1/12である。
外側のふくらはぎ下端の厚さは1/25＋1/26である。
内側のふくらはぎ下端の厚さは1/26＋1/27である。
ふくらはぎの下の厚さは1/15である。
足の甲の上の厚さは1/22である。
足の甲での厚さは1/20である。脛骨の外側の踝の下端での足の厚さは1/15である。
足の長さは1/7である。その最前部の1/3に足指は含まれる。
足指は足の甲の高さの下1/4にはいる。
次に腕の側面の厚さを測る。

d

肩関節での腕の厚さは1/12である。
前の腋での腕の厚さは1/15である。
力こぶでの腕の厚さは1/15である。
肘上での腕の厚さは1/20である。
肘中央での腕の厚さも1/20である。
肘下での腕の厚さは1/19である。
更にその下の腕の厚さは1/24である。
手関節での腕の厚さは1/35である。
手の厚さは1/27である。
こうして女性の側面の全ての厚さは得られた。次に女性の正面の肢体部分の幅を，いま引かれた全ての水平線上で測ることにする。
前に描かれた顔の正面を1/8の長さでその位置に定め，その後他の部分を測る。
頸部の幅は1/17である。肩の高さでの幅は1/13である。
のどの凹みの線での幅は1/10＋1/11である。
肩関節の中心での幅は2/9である。
両腋間の幅は2/13である。
乳頭部間の幅は1/10である。
脇腹での幅は2/13である。
臍上の幅は1/5である。
腰での幅は1/10＋2/19である。その線上での大腿部間の幅は2/13である。
腹の下端での幅は4/19である。
〔身体の〕中央での幅は1/8＋1/9である。
隠部の下端での大腿部の幅は1/16＋1/17である。臀部の下端での大腿部の幅も1/16＋1/17である。
更にその下の，両大腿部間の隙間での大腿の幅は1/9である。
膝上の幅は2/15である。
膝中央の幅は2/17である。
膝下の幅は1/14である。
ふくらはぎ中央の幅は2/25である。
外側のふくらはぎ下端の幅は1/15である。
内側のふくらはぎ下端の幅は1/14である。
ふくらはぎの下の幅は1/6である。
足の甲の上の幅は1/32である。
足の甲の幅は1/25である。足の踝の下での足の厚さは1/27である。
前の足指の側での足の幅は1/8である〔1/8は大き

すぎるので，1/18などの誤記と思われる〕。

次に腕の正面の幅を測る。

腋下での腕の幅は1/19である。

肘上の腕の幅は1/22である。

肘下の腕の幅は1/18である。

更にその下の腕の幅は1/20である。

手関節の幅は1/30である。

手の幅は1/18である。

次に女性の背面を女性の正面の輪郭線から描く。

女性の背面の両腋間の幅は2/11である。

下の踵の幅は1/30である。もっと幅広くしたければ，その幅を1/28にすればよい。

臀部の下からの割れ目の長さは1/11である。

次図の線ａｂにみるように，女性の形態の線を真っすぐな線に美しく描き入れる。〔図５参照〕

4

〔図５に次の文字が記されている〕

頭頂部。額。眉毛。鼻。顎。肩肉の高さ。のどの凹み。腋。乳頭。胸下。脇腹。臍。腰。膝上。膝中央。膝下。外側のふくらはぎ下端。内側のふくらはぎ下端。足の甲。脛骨の外側の踝の下端。足裏。腹の下端。隠部の下端。臀部の下端。両大腿部間の隙間。以上のことは測られた。

Nr.18　８頭身の頑丈な女性：側面・正面・背面像。（ドレスデンのスケッチ帳から，1513年頃，R.2.270頁）

〔図６に次の文字が記されている〕

頭頂部。額の下端。眉毛。鼻の下端。顎の下端。頸部の始まり。肩肉の下端。肩関節の高さ。のどの凹み。胸。腋。後ろの腋。乳頭。胸下。脇腹。臍。腰の下端。腹の下端。中心。隠部の端。臀部の下端。両大腿部間の隙間。膝上。膝中央。膝下。外側のふくらはぎ。内側のふくらはぎ。ふくらはぎの下。足の甲。足裏。紙葉の裏面に，構成の線の除かれた女性図がみられる〔図７〕。

Nr.19～Nr.22は図を中心とした断片的記述のため省略。

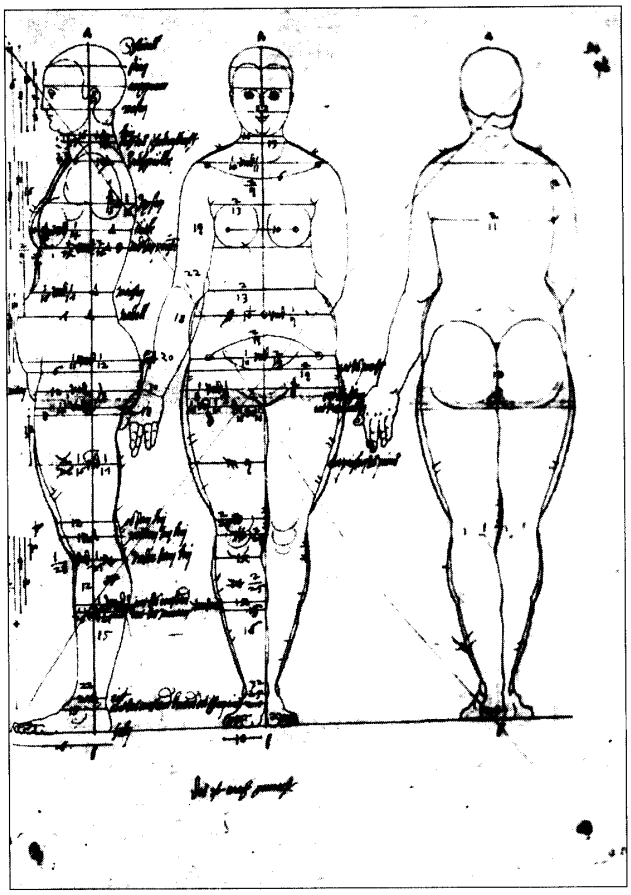

図５　ロンドン草稿 5228, fol. 96[a].

Nr.23　９頭身の女性ｊｋ：正面像の幅，背面像の大きさ；側面像，腕，正面・背面像。（ロンドン草稿，1513年後，R.2.273～274頁）

1

女性ｊｋについて以下記される。

のどの凹みでの身体の幅は2/13である。

肩関節間の幅は4/25である。

肩関節での身体の幅は1/5である。

両腋間の幅は1/8である。

乳頭間の幅は1/12である。

脇腹での幅は1/8である。

臍上の幅は1/12＋1/13である。

腰での幅は2/11である。

同じ線上での両腰関節間の幅は1/14＋1/15である。

腹の下端での幅は2/22＋2/21である。

中心線での幅は4/21である。

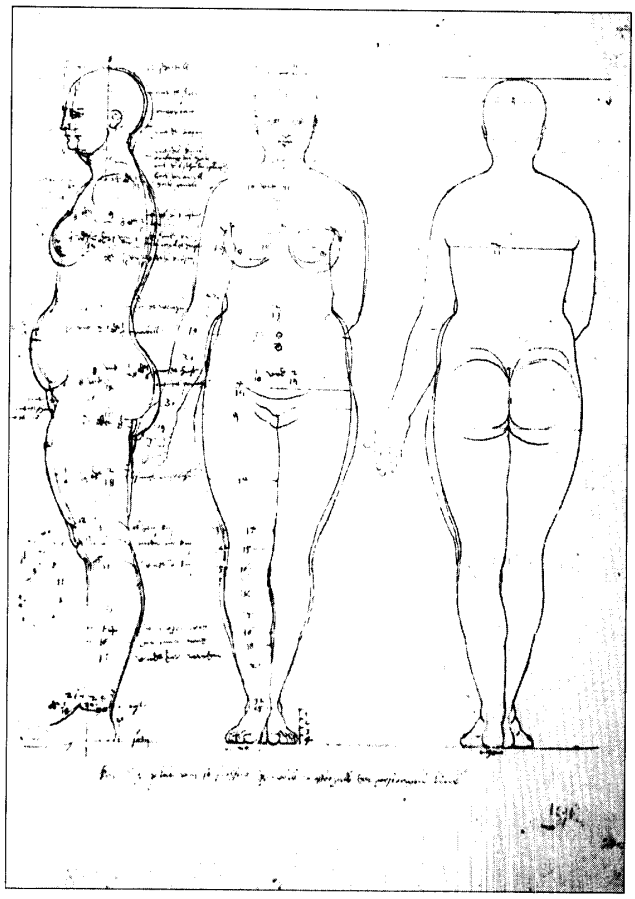

図6　ドレスデンのスケッチ帳，fol. 152v. Strauss 35.

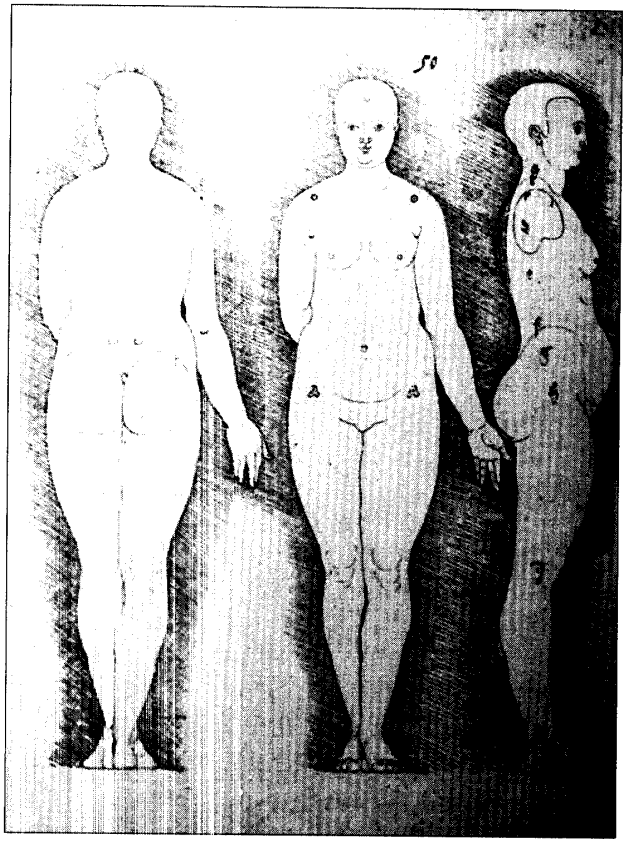

図7　ドレスデンのスケッチ帳，fol. 152r.

隠部の端での幅は3/21＋1/22である。

臀部の下端での大腿の幅は1/21＋1/22である。

両大腿部間の隙間での大腿の幅は1/25＋1/16である。

膝での幅は1/16である。

膝中央の幅は1/17である。

膝下の幅は1/19である。

ふくらはぎ中央の幅は2/31である。

外側のふくらはぎ下端の幅は1/17である。

内側のふくらはぎ下端の幅は1/19である。その下の脚の幅は1/21である。

踝の上の脚の最細部の幅は1/36である。

足の甲の幅は1/30である。

踝の下の足の幅は1/35である。

足の幅は1/22である。

次に腕の正面の幅を測る。

腋での腕の正面の幅は1/24である。

力こぶ中央での腕の幅は1/25である。

肘上の腕の幅は1/28である。

肘下の腕の強い部分での幅は1/22である。

手関節の幅は1/35である。

手の幅は1/21である。

以上のことが記述されたので，次図で線ｊｋ上にみるように，女性の形態の線をいま記された長さ，厚さ，幅に描き入れる。

女性の背面像は正面像の輪郭線で描かれる。ただし背面の両腋間の幅は1/12＋1/13である。下端からの臀部の割れ目の高さは1/11である。また足の踵の幅は1/29である。

2

〔図8に次の文字が記されている〕

9頭身の女性ｊｋ

頭頂部。額。眉毛。鼻。顎。肩肉の高さ。のどの凹み。腋。乳頭。胸下。脇腹。臍。腰の下端。腹の下端。深い切れ込み。隠部の端。臀部の下端。

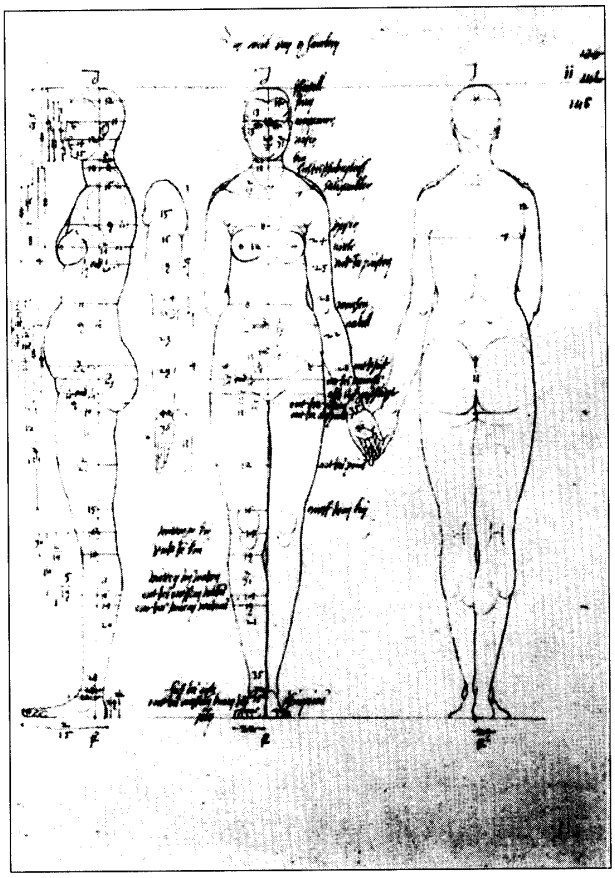

図８　ロンドン草稿 5230, fol. 145[a].

両大腿部間の隙間。膝上。膝中央。膝下。ふくらはぎ中央。外側のふくらはぎ下端。内側のふくらはぎ下端。足の甲の高さ。脛骨の外側の踝の下端。足裏。

Nr.24～Nr.25は断片的記述のため省略。

Nr.26　フェアグライヒァー。７頭身の女性。水平線でなく点が使用されること。（ロンドン草稿，1513年と1523年の間，R.2.275～276頁）

〔フェアグライヒァーの図は省略。本報告第23巻，1992年参照〕

次に前の男性像と対になる７頭身の頑丈で太った農婦について記すことにする。前の男性像と同じ順序で，それを測る。

３本の垂線を立て，肢体部分の長さを示すために点を定める。側面，正面，背面像の厚さと幅を示すのに水平線を用いず，それらを示す点の所に数値を記す。足の甲の所で錯綜しすぎないように，以後全ての人体像で点を用いる。

次のように測る。

肢体部分の長さが示されたので，まず側面像の全ての点で厚さを示すことにする。

後頭部のつむじでの厚さは1/9である。

つねに点に注意をはらうことである。そうすれば間違うことはない。

額の点での厚さは1/6である。〔1/6は大きすぎるので，1/7の1/6の意か〕

Nr.27～Nr.30は断片的記述のため省略。

３．a．人間の頭部の構成

Nr.１　平行投影法による，頭部の３素描の作成（もしくは任意の３次元的対象の粗描）（１はニュルンベルク，ゲルマン民族博物館，２はニュルンベルク市立図書館，３はロンドン草稿，1508/9年頃，R.2.279～283頁）

１

頭部から人体像を描くことにする。それを正しい順序と適切な方法でなさなければならない。方形を描き，その中に点を記して，垂直，水平の平行と呼ばれる直線をそれらの点から引く。

それらの線は水平，上方，下方に他の方形を通って引かれる。他の方形はこのような線によって前に描かれた方形と広くも狭くも相似的に区切られる。

一例を示す。方形ａｂｃｄを描く。その中に任意に点を定める。３点ｅｆｇをおく。高さは同じで幅は細い１２３４と記された他の方形に，最初と同じ水平線を引けば，いま描かれた方形は前の方形と相似的に区切られる。水平線と同様，垂線で上から下にも下から上にも区切ることができる。

方形１２３４についても同様になすことができる。その中に点５，６を定めて，それらの点から下に線を引く。

更に一方の線を他方に移して，それから他の平面を描くことができる。その例に注目しなさい。

１辺が他辺より長い直角定規状の形を描く。そ

れをａｂｃとし，ａからｃに斜線を引く。

線ｂａを１２３の任意の点で区切り，それらの点から斜線ａｃに水平線を引けば，その線は線ａｂと相似的に区切られる。

次に線１２３と線ａｃとの交点から線ｂｃに垂線を引けば，その線は線ａｃや線ａｂと相似的に区切られる。

こうして〔点の〕記載が，ある方形から他の方形に直角定規状の形により移される。

2

最初の記述〔例として本報告第22巻，1991年，54頁，Nr.3；同第25巻，1994年，56頁 Nr. 4 参照〕から，人体像でまず頭部が描かれることになる。次のように，それを正しい方法でなさなければならない。

どのような人体像を描くかを考える。

正しい順序で頭部から始める。そのために顔の側面の全ての高さ，幅，奥行きを顔の正面と背面に移して，それら３図から特別な平面図を描くことのできる方法が必要である。必要に応じて，この方法は身体全体にも適用される。

直角の方形を描く。水平方向にしろ垂直方向にしろ，長方形でなければならない。その中に任意の点を定め，その点を通って垂直水平に平行な直線を引くことができるようにする。

一例を示す。

方形ａｂｃｄを描く。その中に任意の点１２３４を定める。それらの点を通って垂線を引くことができる。水平線も引くことができる。そうするといま描かれた図にみるように，それらの線は十

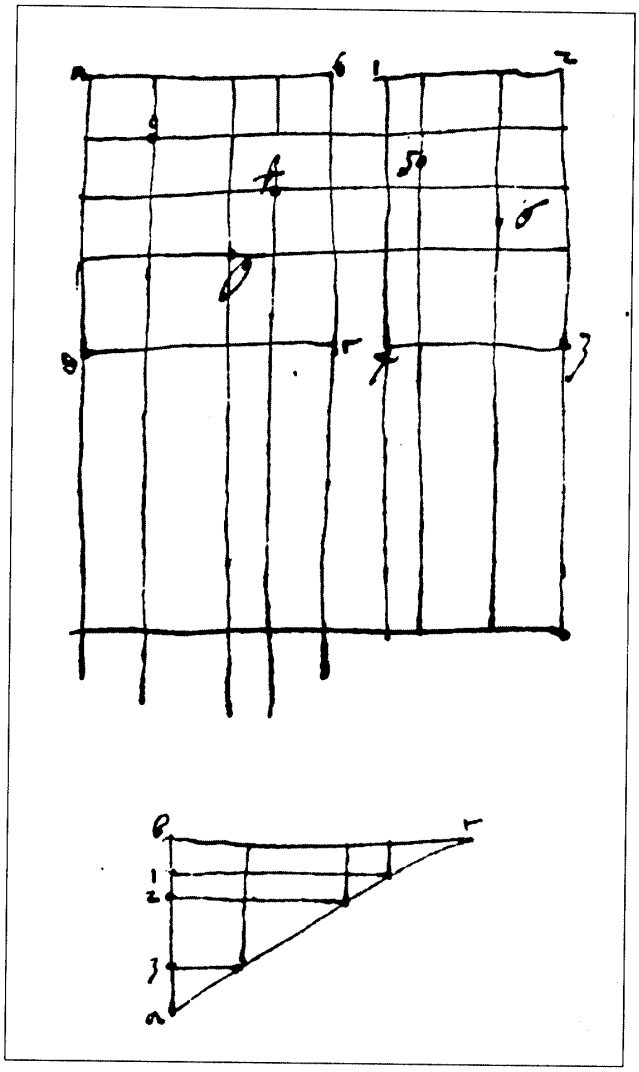

図９　ニュルンベルク民族博物館，fol. 4ᵃ.

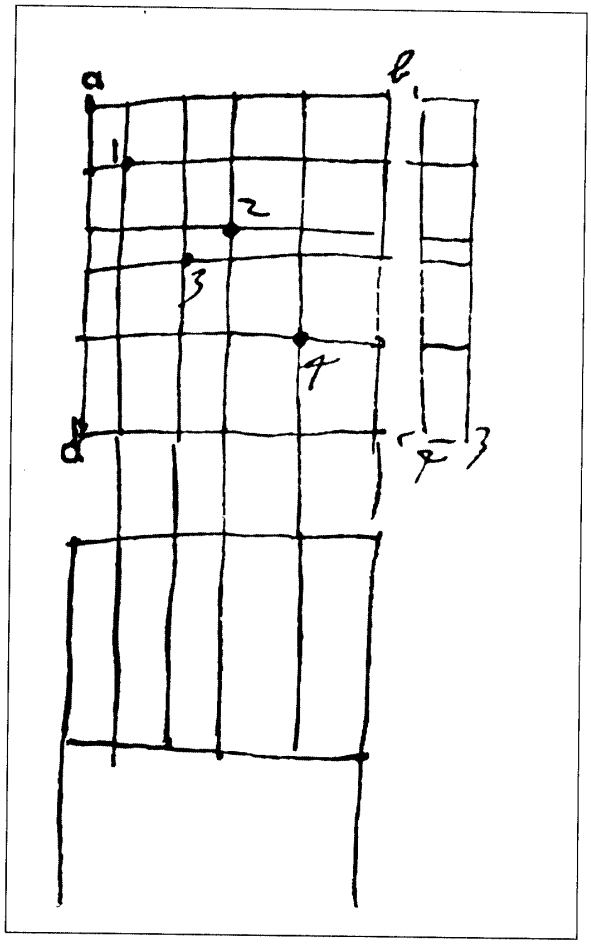

図10　ニュルンベルク市立図書館，fol. 117ᵃ.

字状に交差する。

いま描かれた図から他の平面がその横に描かれる。方形ａｂｃｄと高さは同じで幅は任意に細い，直角の他の方形を定める。最初の平面ａｂｃｄと点１２３４を通る水平線を延長して他の方形を貫けば，図にみるように，他の方形は方形ａｂｃｄと同じ高さに区分される。

次に最初の方形ａｂｃｄの下に任意の幅の直角の方形を定めて，方形ａｂｃｄの点１２３４を通って垂線をおろせば，その方形は方形ａｂｃｄと相似形に区分される。

どの直角の方形でも最も長い線は斜線である。それが対角線である。対角線を通して〔線分の比例は〕ある方形から他の方形に移される。

一例を示す。

等辺三角形を描く〔図は等辺でないが〕。角の３点をａｂｃとする。ａｂは上の水平線で，ｂｃは垂線である。ａからｃに斜線を引く。線ａｂに点を記し，ｄｅｆｇとする。それらの点から垂線を平行におろして線ａｃを通すと，ａｃはａｂと相似形に区分される。垂線とａｃのこれらの交点から水平線を平行に引いて線ｂｃを通すと，線ｂｃは線ａｂやａｃと相似形に区分される。こうして線分の比例は一方から他方に移される。

このようにして顔の側面図は正面と背面図に移される。

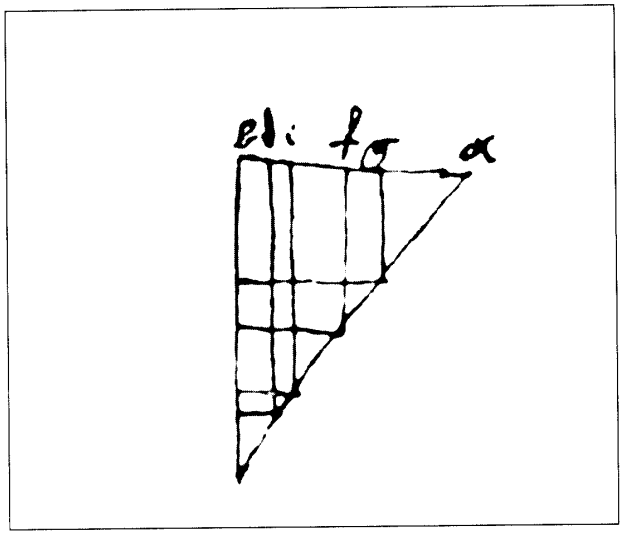

図11　ニュルンベルク市立図書館，fol. 117[a].

その後，次図にみるように，前記の三角形を利用して顔の平面図が特別の方形に移される。

こうして全ての部分は一方から他方に移され，平面図にされる。

3

最初の記述から人体像で頭部がまず描かれることになる。

次に示す方法でそれをなさなければならない。

直角の方形を描く。その角をａｂｃｄとし，その中に任意の点を定める。４点か５点にする。それらの点を通って方形内に垂線（awffrecht linj）をおろす。それはラテン語で perpenticulares と言われる。それらの線は当然平行になる。それでつねにそのことを垂線や平行線と言うことにする。平行線はどこまでも並行であり，離れたり交差したりしない。また方形内で点１２３４を通って垂線が引かれるとともに，点１２３４を通って平行な水平線が引かれる。

いま描かれた方形から他の平面が描かれる。最初の方形ａｂｃｄの横に他の直角の方形１２３４を描く。その高さは方形ａｂｃｄと同じで，幅は任意とする。

２つの方形が併置され，方形ａｂｃｄの点１２３４から水平線を平行に引けば，方形１２３４はそれらの平行線で方形ａｂｃｄと相似形に区分される。

方形１２３４の中に任意の点を定め，それらの点を６７８とする。

方形ａｂｃｄと同様，それらの点を通って垂線を引く。

これらの２平面から３番目の平面が生じる。ｅｆｇｈと記された直角の方形を定めることにし，その幅は方形ａｂｃｄより大きくなく，その高さは方形１２３４の幅より大きくない。

方形ａｂｃｄの点１２３４から方形ｅｆｇｈを通って垂線をおろせば，方形ｅｆｇｈは方形ａｂｃｄと相似形に区分される。

対角線（dyameter）をここでは斜線（ort schtrich）と呼ぶことにする。

斜線はどの直角の方形でも角と角を結ぶ最長の線であることを，知るべきである。

次に方形１２３４の垂線６７８を方形ｅｆｇｈに水平に移す方法を知らなければならない。それを次のようにする。

等辺の直角三角形を描く。その三角形をｊｋｌとする。ｊｌは垂線，ｊｋは上の水平線とし，その幅は方形１２３４より大きくないものとする。その三角形を〔方形１２３４の〕すぐ下に定める。

ｋからｌに斜線を引き，方形１２３４の垂線６７８を三角形を通って線ｋｌまで引けば，線ｋｌは方形１２３４と相似形に区分される。

方形ｅｆｇｈと三角形ｊｋｌを併置し，垂線６７８と線ｋｌの交点から方形ｅｆｇｈを通って水平線を平行に引けば，方形ｅｆｇｈは〔線ｋｌと〕相似形に区分される。こうして方形１２３４の長さの区分は，求めに応じて一方の方形から他方の方形に移される。

このようにして側面図は正面と背面図に移される。そして次図にみるように，三角形により平面図が描かれる。

挿図一覧

図１　ドレスデンのスケッチ帳，fol.118v. Strauss 67.
図２　ドレスデンのスケッチ帳，fol.118r. Strauss 68.
図３　ロンドン草稿 5230,fol.172ª.
図４　ロンドン草稿 5228,fol.98ª.
図５　ロンドン草稿 5228,fol.96ª.
図６　ドレスデンのスケッチ帳，fol.152v. Strauss 35.
図７　ドレスデンのスケッチ帳，fol.152r.
図８　ロンドン草稿 5230,fol.145ª.
図９　ニュルンベルク民族博物館，fol. 4ª.
図10　ニュルンベルク市立図書館，fol.117ª.
図11　ニュルンベルク市立図書館，fol.117ª.

挿図説明の Strauss は，W. L. Strauss：*The Complete 'Dresden Sketchbook'*, New York 1972. の略称である。また「ロンドン草稿」は，大英博物館所蔵のデューラー草稿を指す。